※過去に掲載された記事になります。内容は公開時のものであり、最新の情報とは異なる場合がございます。

スタッフ一覧へ／はじめに（Flash版） | HTML版へ

このコンテンツ、あなたの評価は？ ○ おもしろい ◉ ふつう ○ おもしろくない 送信



© Panasonic Corporation

# はじめに ～また白いゴハンが食べたくなった!～

文：喜多村 武

私は白いゴハンが大好きだ。
まるでこどものようだが、おかずがなくとも、ゴハンだけでも箸はすすむという変わり者である。
では炊飯器にもこだわりをもっているかというと、これが小さくてショボくてイマイチな代物だった。

**おいしいゴハンが炊ける銅釜の開発現場を取材してみないか**

この話をいただいた私は、すぐさま近所の家電量販店を訪ね、店員の女の子に質問をぶつけてみた。
「銅釜ってなに？IHって？ほかのメーカーのとどこが違うの？…」
うまく説明できるかな？と勘ぐったのだが、答えはちゃんと返ってきた。今どきの女の子、けっこうガンバッテ仕事している。

そして肝心の銅釜炊飯器はといえば、おいしいゴハンを炊き上げるために、ものすごくガンバッテ仕事をしている優れモノ。私にとって未知の分野であった炊飯器の開発現場への期待は、俄然高まっていくのだった。
そして取材当日。
兵庫県は社町、松下ホームアプライアンス社　クッキングシステム事業部を訪れた私は、開発スタッフの皆さんとお会いする中で、テクノロジーの部分とは別に、開発に携わった人たちの人間らしさ、人と人との関わりからにじみでてくる物語にすっかり魅了されてしまった。

私の仕事はヴィジュアルディレクター。様々な映像制作のほか、アニメーションの演出にも数多く携わってきたが、もとはといえば絵描きになるための勉強をしてきた身だ。私がこのコーナーを担当するからには、**ちょっと見たことない世界**へとみなさんをお誘いしたいと思う。そんなわけで、銅釜開発物語をコミックスタイルで構成することに決めた。

なんだマンガか、なんて思わないでいただきたい。
これはすべて綿密な取材による事実に基づいたものであり、したがって登場人物もすべて実在する。
また現場の臨場感をありのままにお伝えしたいので、取材時に撮影した写真をコミックの随所に配置した。
マンガだとフィクションのように、絵空事のように捉えられてしまうのでは？という不安はもちろんあった。
しかし、私の心をゆさぶった数々のエピソードを伝達するには、**コミックスタイルこそ相応しい**と思うので、敢えて挑んでみた次第である。

取材の時、ランチタイムに銅釜で炊いたゴハンをおいしくいただいた。あの感覚を噛み締めながら、筆を進めていきたいと思う。

嗚呼、また白いゴハンが食べたくなった!。

© Panasonic Corporation

住所：〒○○○-○○○ 大阪府○○市○○○
パナソニック株式会社 商品開発部
TEL：○○○-○○○-○○○
お忙しいところ、大変恐縮ですが、「鍋」のような、「鍋」のような、ものを作ったという、伝説になっています。
ピンポーン
ガチャ
ガチャ
ガチャ

## 第2話 料理へのこだわり

ある不動産 営業部に入社した主人公の新人社員が、ビルの一室で、あるアイ医学研究所の研究員に対して、ある商品を売る。
ここでは、研究員に対して、どのような商品を提案するのか、その商品の特徴はどのようなものか、を紹介する。

**商品名**：ライスレディ（ライスクッカー）

**特徴**：・ライスクッカーは、ライスレディ（ライスクッカー）

・ライスクッカーは、ライスレディ（ライスクッカー）

・ライスクッカーは、ライスレディ（ライスクッカー）

・ライスクッカーは、ライスレディ（ライスクッカー）

**ターゲット**：ライスクッカーは、ライスレディ（ライスクッカー）

**ターゲット**：ライスクッカーは、ライスレディ（ライスクッカー）

第5話 デビュー&おわて到達!!!
こうして第1号ユニットが完成した。1日あたりの平均出力が約0.5倍の電力量の「ユニット」。2日で2ユニットが完成した。
ユニットの完成を受けて、ユニットの量産化のための「ライン」の設計が始まった。
当初は、ユニットの生産工程を1日1ユニットとする計画だった。
ユニットの生産工程は、
・ユニットの組立
・ユニットの検査
・ユニットの梱包
・ユニットの出荷
の4工程。
ユニットの組立工程は、
・ユニットの組立
・ユニットの検査
・ユニットの梱包
の3工程。
ユニットの検査工程は、
・ユニットの検査
・ユニットの梱包
の2工程。
ユニットの梱包工程は、
・ユニットの梱包
の1工程。
ユニットの出荷工程は、
・ユニットの出荷
の1工程。
ユニットの組立工程は、
・ユニットの組立
の1工程。
ユニットの検査工程は、
・ユニットの検査
の1

## 第4話 挑戦！Q.C.D.!!

松下電器の開発現場での会話にていたる歴史しるとき、
大相撲から心入る言葉をいただいた。

**大相撲**：「伝統は伝統で守ってされたい。いろいろ小ひとは、心ひとりです。
生ていろいろとこんなことしていて、誰と相談をやっていて、
それは主見解はいろーろとなるパンのをきれんと
組み上げてたものがそれなんですよね。
低えていけるパッチョーンを作ってもらいてました。
はのはいーりを自分達でしてけちょはいりする。
これも松下電器の一つの伝統やと思う。
そういう伝統で、先輩達にはへ丸感謝しているんです。」

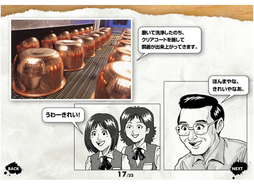
1/35

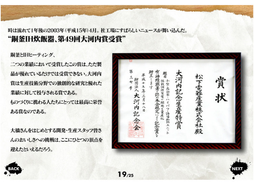
2/35

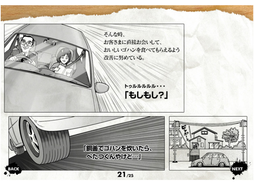
3/35

4/35

ついに動き出した開発内製化!!
開発部：内製化をさらに一つ進めたいと思って。
大相撲：開発を捨て工場でや開発したいっていうの工場は、開発で頑張る。
ずっと前に、ふんんんで、そのこと海外調達のことが言葉の関係や
結んだ時、内製化は無いろ、ってけ言えた。
私たちは開発を？自開発ーやってこ開発したーんんんでやけど、
知恵さいて技術はこれ、あれない、いろ手ーパーとチ！の開発ふーーたん。
もんんん、結果的ふんこ開発の内製化！と本格的ではいます。
開発部：Q.C.D.いろーこ開、思はこは海ふんでで内製化ーで開ーやんんでやけ！ーー
大相撲：なんこはオ！オ！オ！ッ！ス！、アーパーーーの前ことで！ッ！
アオ！オ！ッ！ス！の開ーのQ.Q.Q.は！は自前ーやんおオ！アオ！オ！ッ！
品質の開ー、ドーンは海ア開ーー開ーを！ーーこんんを前ーの！Q.Q.
アーパーーーは自ーのパ！オ！ッ！ス！は自ーーーこ！ーんんんーーの！Q.Q.
Q.Q.Q.は開ーオ！ーーッ！ス！アーパーーーの前ことで！ッ！
ドーンは







よし、じゃあけこか。
お出ちゃ。
お出ちゃ。
ちょっと。
お出ちゃ。
ちょっと。
お出ちゃ。
ちょっと